

平成26年度 自己評価(計画)

学校番号	学校法人静岡理科大学 静岡北中学校	記載者	廣住雅人
------	-------------------	-----	------

学校教育目標	将来のScienceとSocietyを牽引できる存在感と思慮深さを持った人材の育成	【総合評価】		
教育方針	将来、科学技術に夢と希望をもち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる			
今年度の重点目標		評価	成果と課題	次年度の取組
1 学校経営方針を実現するための教育活動の展開及び教育環境を構築する				
2 目標生徒数を獲得する				
3. 進路実績の向上を図る				
4. 法人傘下の中学校としての使命を果たす				
5. 学校評価を高める教育プログラムを展開する				

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	評価	成果と課題	次年度の取組
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	SSH活動だけでなく、他の学習活動や生徒の活動においても社会的な評価を得られるような取り組みを積極的に行っていくことが必要。その中で、本校独自の更なる教育プログラムを模索していく。	SSH活動が中学校のプログラムとしてはいつ2年目になり、各学年において学年相当のプログラムをこなすことができ、中学レベルを超えると評価される成果を残せた。CASEや言語技術のエッセンスは、徐々にSSH活動や各教科学習の中に反映されつつある。			
教育課程・学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画・指導、課題実施、学習状況把握	第3期生を高等学校に送り出すにあたり、高校側との関係を密にするよう、会議体も一緒に運営するようし、互いの状況がいまどようになっているかといったこと、更には双方に対する関心を高める。	第2期生は、個々の目標にあった学科に進学することができた。しかし、中高連携推進委員会を中心とした高校との意見交換の場、あるいは意識の共有化に関しては、確実に進んでいくことができなかった。			
生徒指導	健全な高校生活をおくれるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前・事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	個々の生徒の状況把握を、全教員が確実に、直接に関係する教員だけがかかわるのではなく、学校を上げて一人ひとりの生徒の成長を促す指導体制を作る。	学年部での個々の生徒指導に関しては、よく先生方の指導の跡がうかがえたが、多感な時期の生徒を相手にしているため、短期間に効果を上げることはできなかった。情報を共有したもの、全体での指導に関しては、課題が残った。			

進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実施する。また、本校独自のキュリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、	早い段階において、3年生の学習状況や進路希望に関する情報に関して、高等学校側と情報を共有化し、個々の生徒にとって一番ベストな進路選択ができるような指導体制を作る。	昨年度の反省のつとより、最終的な学科選択の時期を下げたものの、最後まで気持ちが揺れる生徒は残ってしまった。先取り学習に関しては、計画通りに実施できなかった点に反省が残る。			
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険個所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行	保護者の協力のもとにメールアドレス登録を行っているものの、保護者の保有するキャリアの問題、メール設定の問題などで100パーセントの保護者に一斉配信のメールを送れていない状況を、早く改善する。	学内だけで利用する保護者一斉メールを、機能させることができ、行事などの連絡方法として利用することはできなかったものの、保護者からの意見を吸い上げるような活用方法まで検討できなかった。			
保健管理	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療報告を確実に行う。また部活動の活性化を図る。	検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化	引き続き、生徒の健康管理に関する体制を整えと共に、運動部のみならず文化的な活動についても積極的なアプローチをしたい。	年間行事計画にある各種年間計画は、予定通り実行された。部活動の成果としては、空手道部が昨年に引き続き全国大会出場の結果を残し、バドミントン部も中部の中学校の上位行に位置付けられるような成績を残すまでに成長した。			
組織運営	組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が服務を全うする。また計画的な予算編成を中長期的な観点から行い、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の編制及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立と効果的な活用	高校と運営委員会・職員会議を合同で行うように会議形態を変化させ、中学での案件は、中学部会で検討したうえで、運営会議に諮っていくといったスタイルに変えていくことで、高校教員との情報共有を、しやすい会議形態に移行する。	中学における会議形態としてある中学部会、教科担当部会、運営・職員会議、成績会議などは定期的に行われ情報交換は行っていたものの、高校教員との情報の流れがあまりよくなかった。			
研修	学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施	内部・外部による学習に関する取り組みに関する分析・検討を定期的に行いながら、生徒の学力向上のために、自分たちが次に何を目標としていくべきかを、常につかんでいる環境を作る。	内部での分析検討会は、学期に一回行うようになってきたが、外部からの問題指摘の機会が少なくなりました。			
保護者、地域住民との連携	学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	地域に根差した学校となるためにも、地域住民との交流をする機会を作りながら、学校に対する意見・評価を聞く機会を設ける。	多種多様に及ぶ保護者からの要望を精査し、その中でいかに対応していくかについては、個々のケースごとに考えていくことができた。保護者との協力関係に関しては、大方よい関係を作り上げたが、一部問題を抱えた。			
施設設備	施設設備の美化と定期的な点検を確実にし安全管理に努め、生徒たちにとって学習環境を整備する。	効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用	様々な学校施設を、生徒たちの教育活動において、効率よく有効活用をする。	高校生と比較して、中学生の図書館利用率は高いものがあつた。また、日常の教育活動においても、SSH活動における理科室やパソコン教室の利用を、積極的に行った。			
							総合評価